

# 志の実現に向けて 13

## はじめに

7月も下旬に入りました。26日(水)からいよいよ夏季休業に入ります。生徒たちには有意義な時間を過ごして欲しいと思っています。

さて、毎日暑い日が続きます。それでも、時々窓から心地よい風が届いてきます。広島中等教育学校は山を背にしています。山を背後にして水を前方に見るような土地や配置のことを「背山臨水」と言い、風水の思想では気の集まる理想的な立地とされてきました。学校の近くには根谷川が流れています。もしかしたら、広島中等教育学校は風水の思想では、気の集まるいい場所かもしれません。(実際、三入地区は古くから開けた場所でした。)

## 「今後の大学入学者数」について

7月14日(金)に文部科学省は、2040～50年の全国の大学入学者数が年間50万人前後に減少するとの推計結果を公表しました。2022年は約63万人だったことから13万人減少することになります。大学定員に対して在籍する学生の割合である「定員充足率」は、現在の定員が維持された場合、80%を割り込む年もあるとしており、今後、文部科学省で大学の再編・統合なども視野に対応策を議論される予定です。少子化が進む中で、大学受験を取り巻く環境は確実に変わろうとしています。

## 「2025年度大学入試大学入学共通テスト」について

北九州予備校から提供された資料に、「2025年度大学入試大学入学共通テスト」に係る内容が掲載されていました。概要がわかりやすくまとめられていたので紹介します。

[各教科・科目に関する発表のまとめ(配点・経過措置に関する情報を含む)]

### ■ 外国語

科目	解答時間	配点	備考
「英語 (リーディング)」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	80分	英語 (リーディング) 100点 英語 (リスニング)	<ul style="list-style-type: none"> <li>出題語彙数が増加傾向 1989年度(共通一次): 2,732語 →2020年度(センター最終年): 4,232語 共通テスト移行後 2021年度: 5,381語 →2022年度: 5,850語 →2023年度: 6,014語</li> <li>学習指導要領上でも目標とする語彙数が増加 旧) 3,000語 4,000語 →新) 4,000～5,000語</li> <li>コミュニケーション重視: プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション ⇒出題形式に影響(会話文や発表、グラフ・図・資料などの増加)</li> </ul>
「英語 (リスニング)」 は別時間で実施	60分 (うち解答時間30分)	100点 ※ 「英語」以外 は200点	

### ■ 数学

科目	解答時間	配点	備考
「数学I」 「数学I、数学A」	70分	100点	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学I データの分析: 仮説検定の考え方まで 数と式: 有限小数、循環小数の仕組み</li> <li>数学A 場合の数と確率: 期待値が増加</li> <li>※ 旧教育課程履修者に対する経過措置科目あり</li> </ul>
「数学II、数学B、 数学C」	70分	100点	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学の課程変更にともない、数学Cが試験範囲に追加</li> <li>数学II単独での受験は不可 現行課程のまま(配点60点→52点)</li> <li>数学B 「数列」、「確率分布と統計的な推測」</li> <li>数学C 「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」</li> <li>※ 数学B・Cの4分野より3分野を選択して解答 (配点40点→16点×3題の48点)</li> <li>試験時間の変更: 60分→70分</li> <li>※ 旧教育課程履修者に対する経過措置科目あり、ただし試験時間は70分</li> </ul>

## ■ 国語

科目	解答時間	配点	備考
国語	90分	200点	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代文の教育課程変更にもなう変更</li> <li>「現代の国語」「言語文化」の新設・必修にもなう大問構成の変更</li> <li>英語同様にコミュニケーション重視実用文の出題</li> <li>問題構成：5題構成（現代文3題＋古文1題＋漢文1題）に               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1問 論理的な文章（50点→45点）</li> <li>第2問 文学的な文章（50点→45点）</li> <li>第3問 実用的な文章（新設20点）</li> <li>第4問 古文（50点→45点）</li> <li>第5問 漢文（50点→45点）</li> </ul> </li> <li>試験時間変更：80分→90分へ</li> </ul>

## ■ 理科

科目	解答時間	配点	備考
「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」（このうち2分野を選択）	1科目選択 60分	1科目選択 100点	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな変更なし、定義・用語の一部変更</li> <li>基礎・専門間での学習順序の変更あり 身の回りの科学現象の取り扱い、実験・考察問題が多く出題されると想定</li> <li>旧課程の理科①・②を統合 「情報」の試験時間の設置に伴う変更</li> <li>基礎科目は4分野を合わせて「1出題科目」として扱う</li> </ul> ※ 問題は新・旧課程共通だが、旧教育課程履修者が選択解答可能な問題を出題する可能性あり
「物理」、「化学」「生物」、「地学」	2科目選択 130分 (解答時間120分)	2科目選択 200点	

## ■ 地歴・公民

科目	解答時間	配点	備考
「地理総合・地理探究」「歴史総合・日本史探究」「歴史総合・世界史探究」	1科目選択 60分	1科目選択 100点	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史総合 テーマ別学習が中心となっており、図表・写真などの資料を基に考察</li> <li>公民 現代社会の廃止、「公共」の新設・必修化 倫理、政治・経済は、共通テストでは「公共」とセットで受験 試作問題では、「公共」の問題はすべて共通</li> <li>※ 2科目の選択については注意が必要</li> <li>※ 問題の分量の増加が顕著であり、短時間で情報を処理する能力が求められる</li> <li>配点の組合せ               <ul style="list-style-type: none"> <li>「総合」・「探究」 25点＋75点</li> <li>「公共」・その他の公民科目 25点＋75点</li> <li>「総合」・「公共」 50点＋50点</li> </ul> </li> <li>※ 旧教育課程履修者に対する経過措置科目あり、ただし、新・旧課程を組合せる選択は不可</li> </ul>
「地理総合・歴史総合・公共」（このうち2分野を選択）	2科目選択 130分 (解答時間120分)	2科目選択 200点	
「公共、倫理」「公共、政治・経済」			

## ■ 情報

科目	解答時間	配点	備考
【新設】 情報Ⅰ	60分	100点	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通テストの試作問題の構成（4題19問構成）</li> <li>問題文量が34pと多く、短時間で処理する力も求められる               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1問 知識問題（20点）</li> <li>第2問 問題解決（30点）</li> <li>第3問 プログラミング（25点）</li> <li>第4問 情報通信ネットワークとデータの活用（25点）</li> </ul> </li> <li>※ 旧教育課程履修者に対する経過措置科目（「旧情報」あり） 『情報Ⅰ』と『旧情報』では、受験者数が1万人未満の場合も得点調整の対象とする</li> </ul>